

令和5年度 第3回 北海道社会福祉審議会
地域福祉支援計画専門分科会 議事録概要

1 日時

令和5年10月30日(月) 14時～16時

2 場所

北海道立道民活動センター(かでのる2.7) 3階 310会議室 ※オンライン併用

3 出席者

橋本分科会長、藤原委員、平本委員、大原委員、佐川委員、村山委員

※ 藤原委員、平本委員、大原委員、村山委員はオンラインで出席

4 欠席者

岡田委員、中村委員、澤田委員、高江委員

5 事務局

秋田課長、坂田課長補佐、神原地域福祉推進係長、小橋主事

6 議題<第2期北海道地域福祉支援計画の策定>

(1) 第2期計画の全体像

(2) 第2期計画の素案(たたき台)

7 議事

(1) 議題1(第2期計画の全体像)について

ア 事務局から資料1に基づき説明

<説明要旨>

- ・ 各施策項目に関連する具体的取組については、現行計画の内容を維持しつつ、法改正や社会情勢の変化を踏まえて、資料1の3ページのとおり見直す。
- ・ 数値目標を設定する項目は、現行計画の推進状況を踏まえつつ、「5つの柱」に1つずつ設定。

イ ご意見等(有・)

(2) 議題2 (第2期計画の素案(たたき台)) について

ア 事務局から資料2、3に基づき「具体的取組」について説明

* 資料2及び資料3の15～59ページ

イ ご意見等 (有・無)

橋本会長) 社会福祉協議会を先の文章で触れている場合に同会と書いているが、社会福祉協議会と記載した方が良い。

村山委員) 災害時の地域支援体制の部分で、市町村に義務づけられている個別避難計画についても記載した方が良い。

災害支援の具体的な取組で、受援側の災害ボランティアセンターの記述があるが、支える側の DWAT 等についても触れた方が良い。

大原委員) 児童生徒が抱える課題に対する教育相談体制の充実について、教育に限定するのではなく、暮らし全般への相談体制を充実する趣旨の記載とした方が良い。

医療的ケア児の記載は、地域づくりの施策項目ともリンクはするが、相談支援の施策項目の方が近いように思う。

地域住民が、役割を持って主体的に参加するという点について、どこかに表現した方が良い。

藤原委員) アクティブシニアという言葉が最近聞かなくなってきたが、次期計画に改めて記載する必要はあるのだろうか。

平本委員) 高齢者の活躍には、自発的な活動を促す学びの機会が必要ではないか。

様々な入口からネットワークを作って、重層的支援体制を構築するような流れを作ると良い。

生活困窮者自立支援事業の利用者には、相談を受けても就職に至らない人たちがいるので、中間的な就労の場を充実させていくと良い。

佐川委員) 民生委員のなり手不足を心配しており、令和7年の改選に向けて、今から検討を進めてほしい。

ウ 事務局から資料3に基づき「数値目標を設定する項目」について説明

* 資料3の69～74ページ及び77～83ページ

<第2期計画における設定項目と最終年度の目標値>

- (ア) 市町村地域福祉計画の策定市町村数：179市町村（100%）
- (イ) 市町村における包括的支援体制の整備数：179市町村（100%）
- (ウ) CSW等の配置市町村数：179か所（100%）
- (エ) 民生委員・児童委員の充足率：100%
- (オ) 心のバリアフリーに関する認知度：100%

エ ご意見等（有・無）

藤原委員） 市町村における包括的支援体制の整備数の目標を179市町村（達成率100%）としている点について、努力義務であるのに高いように感じる。目標であるから高めに設定したということか。

神原係長） 近年法定化され、徐々に取り組む市町村が増えてきている経過を踏まえ、なるべく欠けることなく全市町村を目指したいという思いがある。

藤原委員） 難しいのではないかと思うが、目標であるから、高く設定する分には問題ない。

(3) 事務局案について（承認・否認）

(4) その他

- ・ 今後、1月中旬に第4回分科会を予定している。
- ・ 第4回では、パブリックコメント等を反映した計画案について議論していく。

以上